



篠田謙一 著

『日本人になった祖先たち：DNAから解明するその多元的構造』

(日本放送出版協会)

著者は、20世紀最後の10年間に飛躍的に発展したDNA分析技術を用いて、遺跡から発掘された人骨のDNA分析結果と現代日本人のDNA研究を基に、日本人の起源となる祖先たちの遺伝子にまで遡っていきます。

縄文人や弥生人についてもDNA分析から検証するばかりでなく、アフリカで誕生した人類全ての祖先が世界各地に拡散していった過程を通して、日本人の起源を人類全体の歴史という大きな流れの中で捉えようとしている本書は、世界をよりグローバルな視点に立って眺める態度を培わせてくれることでしょう。

469.91-Shi (F.O.)

山田雅夫 著

『1分スケッチ!』

(インデックス・コミュニケーションズ)

本書は、書名のとおり1分間という短い時間で描けるものを特定して、フリーハンドで描いてゆくスケッチの入門書です。

楕円形・正方形・長方形といった単純な形を描くことが意外とむずかしくてできないのです。でも本書にしたがって書き進めると、絵の苦手な人、私もその一人なのですが、結構楽しみながら書くことができます。

フリーハンドで書く線の暖かみのある風合いを感じてみてください。

725-Yam (N.K.)



氏家幹人 著

『かたき討ち:復讐の作法』

(中央公論新社)

「悔しい、憎い、あいつだけは生かしておけない。絶対にかたきを討って、この遺恨晴らしてやる!」と堅くりベンジを誓うひとりの武士。「…しかし、相手は遣い手、サシの勝負では、太刀打ちできない。何か、この強敵を死に追いやる手段はないだろうか?」江戸時代にはあったんです。例えば、恨む相手を指名して自ら切腹し、指名された相手を確実に自害に追い込む「さし腹(指し腹)」。復讐のために喜んで自刃に及ぶこともあれば、家名を守るために父が息子をむりやり切腹させることもあったようです。つくづく武士って大変ですね。時代劇がお好きな方にお薦めの一冊です。

210.5-Uji (N.T.)

青山七恵 著

『ひとり日和』

(河出書房新社)

東京で暮らす条件として、親戚の吟子さんのところへ下宿することになった知寿。二十歳の知寿と七十歳の吟子さんの、ちょっと不思議な共同生活が始まります。

不安になったり、焦ったり、少し失望したりしながら生きる知寿に対して、吟子さんが話すのんびりとした言葉が印象的です。

一年かけてゆっくりと変化し成長していく主人公の姿を、四季の移り変わりと共に描いた作品です。

913.6-Aoy (Y.Y.)